

令和 7 年 8 月定例会会議録

(令和 7 年 8 月 2 5 日)

八代市教育委員会

八代市教育委員会 8 月定例会会議録

- 【開催日】 令和 7 年 8 月 2 5 日（月）
- 【場 所】 八代市役所 4 階 4 0 3 会議室
- 【出席者】 中 勇 二 教育長
渡 邊 裕 一 教育委員
早 田 蚩 教育委員
澤 村 互 寛 教育委員
丸 山 智 子 教育委員
- 【出席職員】 下 津 恵 美 教育部次長
押 方 佐地子 教育政策課長
加 賀 真 一 学校教育課長
稲 本 健 一 教育部理事兼教育施設課長
泉 宜 孝 生涯学習課長
中 村 裕 一 教育サポートセンター所長
田 島 良 洋 博物館未来の森ミュージアム副館長
米 崎 寿 一 文化振興課長
植 田 浩 之 未来の学校づくり推進室長
山 崎 撰 博物館未来の森ミュージアム審議員兼学芸係長
永 野 祐 樹 学校教育課指導主事兼指導係長
渡 瀬 洋 学校教育課指導主事兼保健体育係長
坂 川 純 絵 学校教育課教育支援係長
右 谷 知 徳 生涯学習課社会教育係長
中 川 紀 子 生涯学習課生涯学習推進係長
岩 本 隆 宏 学校教育課指導係指導主事
藪 沙代子 学校教育課教育支援係指導主事
- 【事務局】 池 田 拡 次 教育政策課主幹兼教育政策係長
浦 本 美代子 教育政策課参事
- 【審議事項】 <議案案件>
① 八市教委議第 2 3 号 八代市教育委員会の権限に属する事務の委任に関する規則の廃止について
② 八市教委議第 2 4 号 八代市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱又は任命について
③ 八市教委議第 2 5 号 八代市教育委員会委員の報酬及び費用弁償条例の一部改正について

<協議案件>

- ① 協議第6号 令和7年度教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価について

<報告案件>

- ① 報告第18号 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

1. 開会 (午前9時00分 開会)

2. 会議録の承認 令和7年6月定例会

3. 教育長報告 前回の会議から今回までに参加した行事や事業、委任された事項などの中で特に重要と思われるものについて報告。

8月11日の豪雨による災害対応について、現在の状況を教育施設課、学校教育課、教育政策課、生涯学習課から報告。

4. 議題

中教育長 報告第18号 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果については、適切な審議環境を確保する必要があることから、秘密会にすることを提案する。

教育委員 全員異議なし

中教育長 報告第18号 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果については、八代市教育委員会会議規則第5条に基づき秘密会とする。

中教育長 本日の議事の進め方について、協議第6号 令和7年度教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価については、時間を要するため、まず、八市教委議第23号 八代市教育委員会の権限に属する事務の委任に関する規則の廃止について、八市教委議第24号 八代市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱又は任命について及び八市教委議第25号 八代市教育委員会委員の報酬及び費用弁償条例の一部改正について審議後、議事を一旦中断し、各課かい及び事務局からの連絡事項に移る。そして、議事に戻り、協議第6号 令和7年度教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価について協議を行う。最後に、秘密会と決した報告第18号 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果についての審議を行いたい。

〈八市教委議第23号〉 八代市教育委員会の権限に属する事務の委任に関する規則の廃止について

加賀学校教育課長 地方公共団体情報システムの標準化に伴い、八代市長に委任し、住基システムから出力していた転入学通知書が出力できなくなるため、規則を廃止するもの。なお、本市において、システムの移行日は、令和7年9月29日の予定である。

丸山教育委員 今後の転入学通知書はどのように発行するのか。

加賀学校教育課長 これまでは、市民課で転居届出の際に発行していたが、市民課で発行できなくなるため、急がれる場合は、学校教育課に来ていただき、その場で発行する。それ以外は、郵送で発行することになる。

丸山教育委員 市民課から転入転出の通知を学校教育課が受け取り、通知書を発行するということだろうか。申請が必要になるのだろうか。

坂川学校教育課教育支援係長 転入学通知書については、申請は必要ない。

丸山教育委員 住基の異動状況を把握し、学校教育課から転入学通知書を市民の方へ郵送するということでよいか。市民の方々に不便が生じることはないということでしょうか。

加賀学校教育課長 今まで、転居届出の際に発行していたが、後日郵送での発行になる。急がれる場合は、学校教育課に来ていただいて発行することになるため、これについては、市民の方々にマイナスになると思われる。ただし、今までは転入学通知書を転入先の学校に持っていかれるようお願いしていたが、これからは、学校教育課から学校に通知するため、その手間は省かれる。

【八市教委議第23号 承認】

〈八市教委議第24号〉 八代市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱又は任命について

加賀学校教育課長 八代市いじめ問題対策連絡協議会委員の任期満了に伴い、新

たに委員を委嘱又は任命するもの。

質問等なし

【八市教委議第24号 承認】

〈八市教委議第25号〉八代市教育委員会委員の報酬及び費用弁償条例の一部改正について

押方教育政策課長 宿泊料金の高騰その他の社会経済情勢の変化並びに国家公務員等の旅費に関する法律（昭和25年法律第114号）の一部改正及び国家公務員等の旅費に関する法律施行令（令和6年政令第306号）の施行等を考慮し、関係条例の一部を改正するもの。

中教育長 宿泊費が上限を定めて実費の支給となるが、具体的にはどのようなになっているか。

押方教育政策課長 今までは13,100円の定額であったが、改正案は都道府県ごとに定められている。例えば、東京都は27,000円、一番少ない地域は、福島県の11,000円となっている。

【八市教委議第25号 承認】

（議事一時中断）

5. 連絡事項

学校教育課 2学期始業式（8/25、龍峯小・千丁小は9/1）
運動会（9/14～）
学校・園訪問（38校終了）

教育サポートセンター

くま川教室2学期開級式（8/29）
第3回トワイライトセミナー（9/4）
2年目職員代表授業研究会（9/11～11/20）

博物館 むかしの暮らしと道具展（8/19～10/5）

事務局 9月定例会日程確認（9/29 14:00～）

〈協議第6号〉令和7年度教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価について

押方教育政策課長 資料により、点検・評価実施方法等について説明

●基本方針6 9年間を見通した「八代型小中一貫・連携教育」の推進

加賀学校教育課長 点検・評価票により成果指標の進捗状況等について説明

早田教育委員 令和元年度の指標が84.5、令和6年度が80.3、来年度の目標値が85となっているが、今までの流れを見ると、今のままで達成できるのだろうかと感じた。

加賀学校教育課長 令和元年度の数値が高かった。コロナ感染症が関係しているのではないかとと思われるが、連携をより一層推進し、小中学校の見通しをもった学びの充実につなげていきたい。また、学校訪問では、これについて必ず触れるようにしている。小学校、中学校それぞれに意識を高くして進めていけるように取り組んでいきたい。

中教育長 保護者・地域と一体となった学校応援団づくりの今後の課題と方向性について、保護者や地域住民に学校の教育活動を積極的に発信し、と記載があるが、学校ではどのような取組が行われているだろうか。

加賀学校教育課長 まずは、学校だよりを校長が発行している。ホームページに掲載したり、地域の回覧版等で定期的に回覧したりしている。また、地域の自治協議会関係の会議に校長等が出席し、学校の取組や状況をお伝えすることで、地域とともに小中一貫・連携教育を進めていくという学校からの発信であると考えている。

中教育長 地域で子供を守り、育てるというのが一番であると思う。最近、学校訪問で「地域からクレームがくる」というような話も聞く。地域に応援団として、一緒に学校運営を進めていけるようにしていただきたい。

澤村教育委員 今後の課題と方向性について、現在の教育活動に合った協力体制の見直しも必要とある。取組から11年目を迎え、教育活動、教育課題もずいぶん変化していると思う。具体的にどのような変化があり、どのような見直しが必要か、分かっている範囲で教えていただきたい。

加賀学校教育課長 小中の協力体制については、最初に作った計画のまま進めている。また、会議の開催等もそのまま進めている状況であ

る。最近は、働き方改革の視点もあるため、会議は必要な回数が行われているか、十分であるか、より一層効果的な回数、時期などを各中学校区で見直しを行いたいと考える。

丸山教育委員

情報発信について課題となっているが、学校訪問の際に、主に校長先生から、ホームページを毎日更新している、ちらしを作って地域に学校の状況を配布していると、熱心に説明をされる学校もあれば、全くそのような説明がない学校もある。どの学校も情報発信は行われていると思うが、校長先生の姿勢次第で温度差があるのではないかと感じている。小中一貫コーディネーターが全学校に配置してあるということであるが、学校訪問の場でコーディネーターの話を聞いたことがない。学校ごとの温度差、コーディネーターの活動状況はどうだろうか。

加賀学校教育課長

地域学校協働活動について、コーディネーターは各学校に設置している。子供の教育活動や学校の取組について、中心の要となって調整をいただいている方である。貴重な人材として、どの学校も活用していると把握している。学校訪問では時間の都合上、話を聞くことができないが、話を聞くと、何らかの活動に入っておられ、「ありがたい」ということを聞く。主に教育活動、登下校の見守りが多いのではないかとと思う。

丸山教育委員

情報発信の学校ごとの差についてはどうだろうか。

加賀学校教育課長

主に学校だよりであるが、校長先生のなかには毎週発行される方もいる。最低でも月1回、何らかの形で発信をしなければならないと認識をされている。

●基本方針1 幼児教育の充実

加賀学校教育課長

点検・評価票により成果指標の進捗状況等について説明

丸山教育委員

成果指標の設定内容について、全て実績値が100%であることは素晴らしいことであるが、本来、この評価項目が成果指標として適切だったのだろうかと思う。基本的には、研究テーマを設定し、教育・保育内容の工夫改善に努めた結果どうなったかというところが成果として図らなければならないと思う。研究テーマを設定し、研修を実施したというだけでは、成果指

標になり得ないのではないか。両項目ともであるが、現在、次期計画を設定されている最中だと思うので、次期計画の際には、これらの点も踏まえて目標設定していただきたい。

加賀学校教育課長 丸山委員のおっしゃるとおり、計画を立てて実施したことが目的ではないと思うので、しっかりとした手段をとったうえで、どうなったかということにつながるような取組を次期計画の指標に設定できるように検討したい。

渡邊教育委員 幼児教育センター的機能について、これまでの各園ではどのような機能が発揮されてきたのだろうか。さらに、来年度から子育て支援コーディネーターを配置することにより、具体的にどのような機能の充実を図ろうとされているだろうか。

加賀学校教育課長 幼児教育センター的機能としては、幼稚園が小学校と連携して、教育委員会も関わりながら指導充実を図っているため、他の八代市立保育園や私立の幼稚園、保育園と比べても小学校とのつながりはより一層強い。また、校長園長会議でもお互い顔見知りであり、連携の中心となって進めている。保育指導に関しても、教育委員会で適切な保育活動のあり方について指導しているため、園同士の連携を持った際に、どう子供たちにできる力の基礎をつけるべきかという点で、一步引いていた部分があると考えているため、その点で幼稚園のセンター的機能が働いていると考えている。

子育て支援コーディネーターの配置については、配慮を要する子供と家庭支援と一緒に考える必要があるため、関係機関と連携する点を強化しながら、その子に対してどう関わっていくか、保護者も含めたなかで支援をしていきたいと考える。

渡邊教育委員 来年度、現在の職員のどなたかが子育て支援コーディネーターとなるが、自分の役割は何を求められているのかを明確にしっかりと示していただき、先生が働きやすい、意欲を持ってコーディネーターとしての仕事ができるような環境づくりをお願いしたい。

澤村教育委員 スタートアップカリキュラムと架け橋期のカリキュラムとあるが、全く異なるものであるか、重なる部分はあるのだろうか。いくつもあると、かえって集中してできなくなるのではないかと疑問に思ったところである。それぞれの違いや効果はどのようなになっているか。

加賀学校教育課長 スタートアップカリキュラムは、小学校に入学してからのカリキュラムである。幼児教育時代にできた部分をどうつなげていくか、小学校で検討するものである。架け橋期のカリキュラムは、年長の1年間と小学校1年生の2年間をどう進めていくかというカリキュラムである。その中にスタートアップカリキュラムが入ってくるので、架け橋期のカリキュラムの一部と捉えられてよいかと思う。幼稚園にはアップルウオッチカリキュラムがあるので、アップルウオッチカリキュラムとスタートアップカリキュラムが一緒になり、架け橋期のカリキュラムで進めているところである。

●基本方針2 確かな学力の育成

加賀学校教育課長 点検・評価票により成果指標の進捗状況等について説明

丸山教育委員 英検3級相当以上の取得率について、県の取得率と比較すると大きな開きがあるということだが、県の取得率はどのようなになっているか。

加賀学校教育課長 見込みを含めると県は40.5%、本市については28.5%であり、10%強の開きがある状況である。

丸山教育委員 熊本県としても全国的にはかなり低いほうであると報道で出ていたので、そのなかで差があるというのは、非常に重要な問題であると思う。しかし、中学校3年生の英検受検率が94.4%というのはとても高い受検率であり、検定料の全額補助に関しては効果があったと思われる。英検合格だけが全てではないが、子供たちが英語を好きになるような授業をお願いしたい。受検率、英検3級以上の取得率が増加したという結果だけをみると、評価はAでもよいのではないかと思ったが、県の取得率との比較という点でB評価と理解した。

早田教育委員 指標の設定が割合というところで終わるのではなく、この先どうなったのか、子供たちの姿がどう変わったか、先生たちにどう影響があったかという点が指標になってくるのではないかと思う。そのなかで、子供たちの姿が表れているところがそんなに伸びていないと感じている。目標値にあと1年で達成するには、この内容でよいのだろうかと感じている。この評価基準を見ると、Bは概ね順調で、目標どおりに進んでいるという

ことなので、来年度は目標値に到達できるということであり、Cは取組方法等に見直しが必要ということなので、この通りに進めて目標値に到達するのであれば、B評価ということになると理解している。そうすると、この点検・評価票を見てB評価でよいのだろうかと感じた。

加賀学校教育課長 子供たちの姿にコミットするというのは難しい部分である。市として学校としての取組を鑑み、B評価としている。英検3級については、目標値44%に対し、実績値は24.4%であるため、非常に厳しく、危機感を持って取り組んでいきたい。キャリアパスポートについては、活用している学校の割合が指標項目となっているので、これを指標項目としてよいか、今後検討する必要があると思う。A評価は想定以上の数値結果が得られ、課題がない場合と考えているため、一つでも増えるようにしたい。B評価は取組状況が予定されていたものと考えている。

早田教育委員 子供たちの姿は、ちょっとした取組でぐっと伸びるのは難しいと思うので、目標値の設定のしかたは、次回以降に検討されるとよいかなと思う。

渡邊教育委員 この点検・評価票は、外部評価が終わった後に公表されるのだろうか。

中教育長 公表される。

渡邊教育委員 学校や幼稚園は、例えば学校教育課がこの指標で点検・評価を行っていることを知っているのだろうか。

加賀学校教育課長 認識はないと思う。

渡邊教育委員 学校と教育委員会が一緒になり、情報を共有して頑張っていないと、教育委員会だけでなかなか伸びないと言っているも、実際、現場の生徒のことなので、学校が教育委員会がどのような指標を重点事項としているのかを知って、一緒に伸ばしていく必要があると思う。公表されるのであれば、学校に公表できるのではないかなと思った。

加賀学校教育課長 点検・評価については、おそらくほとんどの校長は知らないと思う。校長園長会議で伝えるしかないかなと思うが、他の課の

情報もあるので、どうアナウンスし、情報共有するかを検討したい。

中教育長 この点検・評価票は、外部評価のあと、議会に報告し公表するながれとなっている。

澤村教育委員 英検３級以上の取得について、取得率が徐々に上がってきているのは、これまでの実践が伴ったということで、とてもよいことだと思う。順序としては、授業の充実があって、英検へのチャレンジということになると思うので、ぜひ授業の充実をしっかりとお願いしたい。他の教科も同様であるが、学力・学習状況調査に結果についても、小学校は少し向上し、中学校はほぼ横ばいに見える。学校では研修等も行われていると思うが、ぜひ少しずつでも向上するよう努力を重ねていただきたい。

丸山教育委員 目標読書冊数を達成した児童生徒の割合について、中学校においては下がってきているが、これについてはどのように考えているか。

加賀学校教育課長 中学校で微減していることについて、これまでは、朝自習の時間に読書の時間を設けていた学校もあったが、学力向上の時間に変えたり、働き方改革により朝自習も時間がなくなったりしていることが影響しているのではないか。加えて、タブレット関係の環境整備をしているので、読書の時間がeライブラリを活用する時間となったりしていることが関係しているのではないかと思われる。読書の時間も大事にしたいので、学校と情報共有をしていきたい。

丸山教育委員 読解力は全ての学力の基礎であると思うので、タブレットを通じて何か物を読むということも大事だと思うが、並行して読書も大事にしてほしい。

●基本方針４ 健やかな体の育成

加賀学校教育課長 点検・評価票により成果指標の進捗状況等について説明
押方教育政策課長

渡邊教育委員 部活動について、改革についてはだいぶ推進が進んできていると思っている。大事なことは、保護者への情報提供であると思う。いろいろなされていると思うが、例えば、学校運営協議

会やPTA役員会、総会などでも話題にしてもらうように依頼をするなど、多くの保護者が正しい情報を得られるように努力を重ねていただきたい。とにかく不安を取り除くことが大事であると思う。私自身、合同部活動や拠点校部活動は大変期待をしているので、よろしくお願いしたい。

加賀学校教育課長 今年度、保護者への説明会を行った際に、突然降ってきた話とならないようにしてほしいという要望があった。小学校の社会体育移行の際に、決定事項が伝えられたという保護者の認識があったため、前もって段階的に説明するようにしている。これについては、学校と連携しながら、保護者に伝える部分は明確に伝えていきたいと考えている。

●基本方針8 学びを支える教育環境の整備

加賀学校教育課長 点検・評価票により成果指標の進捗状況等について説明
押方教育政策課長
植田未来の学校づくり推進室長

丸山教育委員 幼稚園・学校規模適正化の推進の学校教育課の評価について、A評価でよいと思うが、取組状況及び評価の理由に、なぜA評価にしたのかという記載をもう少し入れたほうがよいと思う。予定より早く開園を行うことができた、幼稚園を集約することで、より充実した幼稚園教育を行うことが可能となったなど、そういったことをもう少し記載のなかで触れられたほうが、A評価たる理由になるのではないかなと思うがいかがだろうか。

加賀学校教育課長 そのような視点をぜひ記載したいと思う。A評価とした理由は、予定どおり進んでいる点もあるが、2園になった際に、より幼児教育が充実する点で、いま動くことができていますので、盛り込んでいきたいと思う。

渡邊教育委員 学校支援職員については、この配置事業が発足して以来、多くの支援員が配置され、充実してきていると思う。大変ありがたいことである。学校現場が一番求めるのは、人であると思う。優秀な支援職員を確保するためにも、毎年見直しをされていると思うが、さらに労働条件の向上をぜひお願いしたい。

加賀学校教育課長 面接等でマンパワーの補充ができ、力のある方、適正な方が配置できるように努めたい。労働条件についても、今年度、勤務時間を1時間増やしたが、運用についてはまだまだ課題があると思っている。1時間増やしたことで、これまで残っていた記録等の事務作業ができるとよいと思っていたが、学校は子供たちと関わる時間を増やすため、結局、記録の時間が取れていないという状況が毎日の報告で分かっているので、学校にも伝え、労働条件の向上に努めたい。

澤村教育委員 学校支援職員の職種が増え、研修等も大変かと思う。全支援員のそれぞれの職種について、研修を行っているのだろうか。

加賀学校教育課長 学校支援職員については、子供たちと関わる時間があるので、そうでない時間を見つけて研修を行っており、学校運営上は不利益がないかたちで行っている。それぞれの支援職員は、どういう部分での運用としているかについては、学校教育課としてもしっかり伝えている。また、細かい部分については、同じ支援職員同士で話したほうが、普段の悩みやよい取組などが話せると思うので、グループ協議等をとおして情報交換が行える場を設けている。情報交換のグループ協議は、毎年、支援職員から好評を得ているので、より充実するような研修を検討していきたい。

澤村教育委員 学校訪問の際に、支援職員が授業に付き添う姿も見るので、教育効果を上げるためにも、職員の質の向上、有効な支援ができるようお願いしたい。

〈休憩〉

(議事再開) 午前10時55分

●基本方針9 安全・安心な学校づくりの推進

稲本教育部理事兼
教育施設課長
加賀学校教育課長
押方教育政策課長 点検・評価票により成果指標の進捗状況等について説明

早田教育委員 安全教育・防災教育の推進ということで、昨年度からマイタイムラインのワークショップを進めていただき、大変お世話に

なっている。全小学校の5年生を対象に進めているが、人数が少ない学校については、4・5・6年生で行ったり、全校生徒で行ったり、可能な限り多くの子供たちが体験できるようにしている。それとともに、子供たちが自分事として考えられるようになった、マイタイムラインを家庭に持ち帰り、家族と話したという声が聞かれるなど、この事業を中心に、保護者や学校に徐々に広まりつつあるという実感を私自身感じている。学校の先生に向けたアンケートも実施しているので、今年度の事業終了後にアンケート結果を共有したい。この事業を実施するなかで、他市町村で八代市での取組を話すと、全小学校で防災教育をしているということにとっても驚かれる。どこの市町村もできていないことが八代市で実施されていることは、県内でも全国的にも進んだ取組だと思う。来年度で事業は終了するが、これをきっかけに、この先にどう学校につなげるか、中学校にどうつなげるかを進めていただきたいと思う。また、6月に千丁小の5年生でこの事業を実施したので、千丁小の子供たちにこの事業がどう影響を与えたか、子供たちの状況を見ながらアンケートなどが取れると、この事業が与えた影響などが分かるのではないかと思う。

給食センターが集約することについて、今回の災害で千丁給食センターが被災をした。影響があったのは小学校のみで、中学校では夏休み明けに給食が提供できるということだったが、集約すると、給食センターが被災した場合の影響がとても大きくなるので、そういった場合の対応をどうするのか。ハザードマップを見ながら、高いところにあるからというものもあるが、今回の災害では、雨の降り方によって、大きく被災する地域とそうでない地域に分かれたので、ハザードマップだけではなく降り方も影響する。また地震の影響も考えると、集約した場合の災害への影響について、事前に考えておく必要があるのではないかと感じた。

加賀学校教育課長 「くまもとマイタイムライン」の作成は、子供たちが自分事として考える、また、保護者も一緒になって考えるよい機会となっていると考えている。毎年度更新が必要であるため、この機会は毎年設け、よりよい防災教育につなげていきたい。

渡瀬学校教育課指導主事兼学校保健係長 防災教育については昨年度、子供が受講した。今回の災害では、マイタイムラインを見ながら、親がいないときにはどこに避難すればよいか、改めて家族で確認できていた。そういった意味で、効果があったと感じている。

中教育長 令和2年7月豪雨では、球磨川流域だけしか被害がなかったということで、自分のこととして考える場面が少なかったと思うが、今回の大雨を経験し、どこでも起こり得る、自分も被災するということを皆さんが分かったと思う。防災教育についてはしっかり進めていきたい。

澤村教育委員 学校プールモデル事業について、以前、検証結果については報告を受けているが、その後、変化などはなかったか。

稲本教育部理事兼
教育施設課長 昨年度末に整備方針を決定し、来年度、学校数を増やせないか、老朽化している施設があるので、学校と協議を行っている。来年度の予算要求に向けて、できれば4校ほど、民間プールもしくは共有化などできないか、学校と調整を行っている。学校の意見としては、民間プールがよいということである。天候に左右されないという点で、熱中症アラートが出ると、屋外での授業ができないため、今後は室内プールがよいのではないかとということが学校の意見として出ている。

澤村教育委員 プールも暑くてできないような状況であり、児童の健康、体力面の向上においてもマイナスになると思う。ぜひ民間の施設が使えるように調整ができるとよいと思う。よろしくお願いいたします。

渡邊教育委員 プールについて、今年の夏は大変暑かったということで、校長先生方と話していると、1学期に水泳の授業をしなかったという学校もあるように聞いている。そうすると、近隣校のシーズン制利用も可能となるのではないか。1学期にしたい中学校、2学期にしたい小学校があると、1つのプールで十分できる。今後は天候のことも考慮しながら、プールについては考えていかなければならないと思った。

稲本教育部理事兼
教育施設課長 シーズン制についても調整をしており、二見地区の場合、小学校は1・2学期、中学校は2学期にできないか。また、金剛小では1学期に水泳の授業をせず、2学期にするとのことだったので、1学期に第六中が使用できないか話をしている。さらには、代陽小では水泳の授業を2学期にするということだったので、1学期に第一中が使用できないか、規模が大きい学校については、共同利用ができないかを検討しているところである。

丸山教育委員

教育施設課に2点お尋ねしたい。

成果指標の進捗状況について、トイレの洋式化が令和7年度末に実質100%に達する見込みとあるが、実質とはどういう意味だろうか。また、外壁の劣化状況調査が全て終了したということで、今後、優先順位を付けて計画的改修をするとのことだが、点検の結果、緊急に改修が必要な施設があるのかなど、状況を教えていただきたい。

稲本教育部理事兼
教育施設課長

トイレの洋式化について、文部科学省の洋便器化率は、通常、生徒が使用するところが対象となっている。例えば、プールのトイレ等は除かれるため、実質という表記にしたが、省きたいと思う。

外壁の状況としては、かなり悪い学校が多い。外壁だけではなく、樹木についても倒木、枝が落ちるなどの報告がある。予算が膨大にかかるため、計画的に進めたいが、予算が限られているため、全てを改修するのは難しい状況である。今後、外壁改修をどうするか、施設の老朽化対策、建て替え等について、どう調整するかについては共有したい。

丸山教育委員

危険の度合いは学校とも共有されていると思うが、子供たちが安全なように、立ち入りを制限するなどの対応を取りながら進めていただきたい。

●基本方針7 教職員の資質・指導力の向上

加賀学校教育課長
中村教育サポート
センター所長

点検・評価票により成果指標の進捗状況等について説明

渡邊教育委員

「子供たちと向き合う時間が増えたと思う割合」が50%を超えて高くなっているのは、改善が進み始めたと感じている。先生方の仕事は、時間にゆとりができるとさらに教材研究をしていく性があり、終わりのない仕事であるという気がしている。だからこそ、しっかりとしたアクションプランが必要であると思う。アクションプランのアンケートのなかでも、おそらくあったと思うが、教師としてのやりがいや学校での働きやすさの面でもしっかり調査分析を行い、公表していくとよいと思う。

教育サポートセンターの研修について、対象が拡大されたことは素晴らしいことで、ご苦労も多いかと思う。私が経験上思っているのは、4年目の先生、つまり再配の先生方は、管外から来られ大きく教育環境が変わった先生方である。いろいろな悩みもあると思うので、4年目の先生方に着目をした対応、研修も必要ではないかと思う。よろしくをお願いしたい。

加賀学校教育課長 働き方改革は、年度ごとでしっかりとどう進めていくかを考えていく必要があるため、「子供たちと向き合う時間が増えたと思う割合」が55.3%であったことは喜ばしく思う。先生方の仕事は終わりのない仕事というのは、まさにそのとおりであると思う。学校でしなくてはならないこと、学校外でもできること、地域と保護者と連携しながら働き方改革を進められるようになると、先生方に対する働き方の理解につながると思う。やりがいや働きやすさについては、メンタルヘルスチェックを毎年行っているので、結果を踏まえ、先生方の負担軽減のバランスを見ながら進めていきたい。

中村教育サポートセンター所長 4年目の再配者への指導の充実について、ご助言をいただきありがたい。実際、他管内でも初任者の採用が増えている。逆に言うと、八代市の再配者の入りも多くなっているということである。4年目だけを対象とした研修は行っていないが、授業づくり継続サポートで、再配者も何人か対応したところである。若手教師は特に、継続サポートは効果的であると思っているので、意識しながら対応していきたい。

澤村教育委員 教員の希望者が少ないため、教員の質の維持、向上については大変ご苦労されていると思う。実践を見ると、特に若手の先生が自信を持って学校の戦力となるよう、いろいろと考え、研修、サポートをされており、素晴らしいと思う。特に、学級づくり、授業づくり継続サポートはとても大事であると思う。教員は毎年度、学級が変わり、子供たちも変わるので、学級づくりで悩んだり、児童、生徒や家庭との問題を抱えながら、日々過ごしているところがある。継続してサポートしていくという体制は大事であると思う。ぜひ、全ての先生方が自信を持って学級づくりや授業づくりに臨めるように、サポートしていただきたい。

早田教育委員 教職員の資質・指導力の向上という基本方針で、成果指標が働き方改革の内容だったので、どう見たらよいのかと思った。

先生方の研修により、資質・指導力の向上を図っているという点については、教育サポートセンター、先生方の取組は素晴らしいと感じた。私自身、防災や気象の関係で、県内外のいろいろな学校を訪問することがあるが、校長先生が「うちの学校はおもしろいことをしているので、授業を見て行ってください」と、防災や気象とは全く関係のない授業を見せてくださることがある。自分たちのしていることに自信を持って紹介して下さることが多々ある。県内で興味深い授業をしている学校は多くあるので、市外にも先生方をどんどん研修に出していただき、刺激を受けていただきたいと思う。身内だけ、自分だけで思い悩んでいてもうまくいかないことが、外に出て多くの人と触れ合うことによって、新しい視点をもらうこともある。先生方の気持ちを高めるためにも、やりがいを持って教えられるように、外に研修に出ていただきたいと思う。先生方が楽しいと思うことが、子供が楽しいと思うことだと思う。ぜひ、先生方のやりがいを高めることができるような取組をお願いしたい。

加賀学校教育課長 教職員の資質・指導力の向上について、この成果指標でよいのかということであるが、数値化するのは難しく、学校運営が滞りなくできているか、教職員のトラブル、生徒指導時の問題で時間が取られてしまうのは、資質が足りないということになるため、勤務時間内にできるだけ超過勤務なく業務ができるという点も資質向上につながるのではないかとことから、成果指標を定めたところである。先生方と連携を取りながら進めていきたい。若手の人材育成も含めて、教育サポートセンターと連携し、必要な先生方については情報共有をし、見ていく必要がある先生については注視していきたい。先生たちの指導力が付き、うまく学校運営ができ、勤務時間内に業務を終え、やりがいを持てるとよい学校が増えると思っている。

中村教育サポートセンター所長 特徴的な取組や市外での研修について、県教育センターから案内があり、八代市の校内研修に講師を呼んだり、県教育センターの研修に参加したりしている。各学校に確実に周知できるようにしたい。

●基本方針3 豊かな心の育成

加賀学校教育課長 点検・評価票により成果指標の進捗状況等について説明
中村教育サポート

センター所長

丸山教育委員

「熊本県公立学校心のアンケート」において、「いじめられたことを誰かに話をした」と回答する児童生徒の割合が、小学校 75.7%、中学校 80.1%とあるが、「いじめられたことがあるか」と聞いたらもっと多いということだろうか。

加賀学校教育課長

いじめられた児童生徒のなかで、小学校では 75.7%、中学校では 80.1%が誰かに相談していることである。2割程度の子供たちが、いじめられているが誰にも相談できていないという状況が読み取れる。

丸山教育委員

いじめの問題については、件数は各学校で把握され、学校訪問で伺うとそんなに多くないように思うが、SNS上でのトラブルなど、見えないところで起こっていることもあるのではないかと思う。見えないところでの問題に子供たちの声を聞くのは難しいが、SNSの使い方等の指導を通じて、少しずつ解明されるとよいと思う。

渡邊教育委員

不登校の児童生徒数の推移について、学校訪問で各学校ごとに説明があるが、このような分析もあるかと思う。中学校区ごとに分析してみるのも、何か見えてくるのではないか。そうすることによって、小中学校の不登校に関する連携も進むのではないか。小中合わせた中学校区の子供たちの状況を見ていくと、なんらかの手がかりが見つかるかもしれないと思った。

くま川教室については、不登校対策の大胆な拡充をお願いしたい。より多くの子供たちを受け入れるために、場所、時間、内容、指導員数などを子供や保護者に寄り添ったかたちで拡充をするための予算の確保をお願いしたい。

中村教育サポート
センター所長

不登校児童生徒について、各学校の毎年の不登校数は把握できているので、中学校区ごとに分析することは可能であると思う。早速、分析したい。また、今年度当初の定例会で、幼稚園再編について話題となったときに、この広域な地域でくま川教室が1カ所しかないが、施設を探すのが困難な状況のなかで、幼稚園の再編は、くま川教室の施設を増やすという点では、非常に大きな転機になるのではないかと思った。施設を増やすだけでなく、不登校の子供たちはいろいろなニーズを持っており、7月下旬から8月にかけて、不登校の子供を持つ保護者に対して、アンケートを実施した。その結果を現在、分析してい

るところであるが、その結果を受けて、さらにくま川教室の受け入れ体制を広げていく必要があると考える。

澤村教育委員

環境教育の推進について、「豊かな心の育成」という基本目標に入るのだろうかと思ったところであるが、環境教育は、いま、自分たちを取り巻く環境が激変しているため、子供たちが将来を生き抜いていくための力として付けていくべき大きな教育であると思う。一つの分野として中心となる重要な分野であると思っている。各学校では「学校版環境ISO」に取り組み、児童生徒が自分たちで考え、環境によいことに取り組んでいこうとしていると思う。時代によって内容が変化していくと思うし、授業でも環境問題や気候変動、食料問題などに関係してくるので、学校としても力を入れる必要があると考える。マンネリ化せず、士気を高く持って取り組まれるようお願いしたい。

加賀学校教育課長

水俣関係につながる学びもあるので、それとつなげて自分の環境をしっかりと見ていく、そして、ひと、もの、自然、命や愛県意識をどう高めていくかにつながる大事なことであると思っている。また、マンネリ化せずというのは大事なことであると思う。教員によっては、知識のみを伝えて終わってしまうこともあるが、知識を学んで何につなげていくのか、また、合わせて実態を子供の豊かな心の育成にどうつなげていくのか、それぞれの教員、学校全体で考えていく必要があると思う。豊かな心の育成につながるよう取り組んでいきたい。

丸山教育委員

成果指標のいじめの解消した割合の数値の根拠となる調査が違っていると記載があるが、県の追跡調査と令和4年度以降に実施されている「問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」についても、いじめ解消率が把握できる調査であるのに、どうして数値がこんなに乖離するのか。その場合、目標値はこのままでよいのだろうか。これは、どのような点で違いが出ているのだろうか。

加賀学校教育課長

令和4年度以降、実施されている「問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」については、年度末時点での解消率であり、それ以降、解消したものについては把握できない状況となっている。年度末以降の解消率は大事な点であるため、それぞれの学校で定期的なアンケートを行っており、その後の定例報告では、いじめの認知はないとされている。実質は令和元年度、2年度に近い数値となっていると思われるが、そ

れに基づく校内調査がないため、「問題行動・不登校等指導上の諸課題に関する調査」を基に算出した数値としている。

中教育長 いじめの解消というのが、数カ月間継続しないと解消とは認められない。年度末近くにいじめが発覚した場合は、どうしても年度末時点では解消しない。いじめは終わっていても、数カ月経過しないと解消とカウントできないため、数値が乖離してくる。

加賀学校教育課長 県の心のアンケートが実施されるのが、12月であり、1月頃にいじめの認知があるが、3ヵ月間、いじめがない状態にならないと解消とはならないため、年度末までに解消の確認ができない。

中教育長 公式の調査としては、いじめの解消した割合の数値がないということである。

丸山教育委員 今後もこの数値が必要ということであれば、市独自で基準を設けて調査するなどが必要ではないか。または、解消した割合ではなく、発生割合にするなど、成果指標として設定するのであれば、検討する必要があると思う。

中教育長 いじめの解消した割合は、以前は99.5%というような数値があったので、そこに向けて取り組んでいくのが大事なことであり、市独自で基準ができるのであれば一番よいので、工夫していただきたいと思う。

加賀学校教育課長 いじめが継続している場合は、4月からの定例報告で上がってくるので、上がっていないということは、継続していないということになる。いつ3ヵ月経過したかということが確定しない部分があるが、数値を出すのであれば、定例報告で確認することになる。

●基本方針5 特別支援教育の推進

加賀学校教育課長 点検・評価票により成果指標の進捗状況等について説明
中村教育サポート
センター所長

澤村教育委員 指標項目の個別の教育支援計画の作成の割合について、通常

学級が100%にならないのは、保護者の了解が得られないなどの理由であることは理解できるが、令和7年度の目標が令和6年度より低くなっているのはなぜだろうか。また、今後の課題と方向性に、特別支援学級在籍率の高さは本市の課題であるため、適正な学びの選択ができるよう、通級指導教室を中心とした学びの場の整備等を行っていくとあるが、八代市は他の市町村と比べて、どのくらい在籍率が高いのか。適正な学びの選択ができていないことが多いのだろうか。説明をお願いしたい。

藪学校教育課指導主事 卒業の関係で、例えば小学校から中学校に上がるときの配慮が必要な子供が変わっていくこと、中学3年生が卒業していくことで全体的な割合が変わってくる。また、学校側が支援が必要であると思っても、保護者の了解が得られないことがある。年々、配慮の必要な子供が増えているが、特別支援的な配慮なのか、家庭環境的な配慮なのか、認識として難しい。この数値が100に近づくのは難しいと思われる。

澤村教育委員 現実的には、流動的であり目標値は立てづらいということで理解した。

押方教育政策課長 目標値が下がっていることについて、令和7年度の目標値は、計画の策定時に当時の現状値を踏まえて定めた目標値であるので、策定時における令和7年度の到達目標ということになる。

坂川学校教育課教育支援係長 本市の特別支援学級の在籍率について、令和6年度は小学校で6.8%、中学校で8.2%である。全国平均が小学校が6.16%、中学校が5.77%であり、若干、全国平均よりも高い数値である。熊本県全体でも高い数値である。

加賀学校教育課長 適正な学びの場について、教育支援委員会を行っていると、保護者の意向が非常に強い部分があると感じる。それが基となり、医師の診断書となるが、結果が明らかに違うのではないかというのが、毎回、数件ある。学校が適正な学びの場を見取りながら、子供、保護者に説明していく力を付けていく必要があると思う。教育支援委員会が不要と判断したから、不要ということではなく、学校はユニバーサルデザインの視点であったり、合理的な配慮のできる部分があるので、本当に特別支援学級が必要な子供たちに対して、適正な学びの場、特別支援学級

が提供できるようにしたいと考える。

中村教育サポート
センター所長

通常学級の担任が、配慮を要する子供たちに対応できるスキルを身につける必要がある。自分に対応できないから、すぐに特別支援学級ということではなく、国の調査でも配慮を要する子供たちが8.8%いるという実態が分かっているので、通常学級の担任も、特別支援教育の視点を持つということは、適正化に向けては必要であると思う。

渡邊教育委員

特別支援教育に関しては、年々業務が増えていると推測する。現在、学校教育課の教育支援係と教育サポートセンターのアドバイザーが主に対応していると思うが、将来的に教育支援係で行っている特別支援教育の業務とアドバイザーの業務を合わせ持つような組織も考えていく時代になるのではないかなと思う。熊本県と熊本市には特別支援教育課があるが、これだけ特別支援教育の必要性があり、ニーズも高まっているので、それに応じた組織も将来的に検討する必要があると感じた。

〈休憩〉

(議事再開) 午後1時00分

●基本方針10 学校・家庭・地域の連携・協働

泉生涯学習課長
加賀学校教育課長

点検・評価票により成果指標の進捗状況等について説明

渡邊教育委員

成果指標の人材ボランティア登録者数について、24人はどのような方たちだろうか。地域未来塾や放課後子ども教室等に携わっている方々だろうか。

右谷生涯学習課社
会教育係長

地域未来塾とさまざまな地域学校協働活動に参加される方々である。

渡邊教育委員

登録をしていなくても活動はできるということだろうか。

右谷生涯学習課社
会教育係長

そうである。地域のコーディネーターが連れてこられる場合もあれば、地域にいない場合は、名簿から探す場合もある。

渡邊教育委員

地域未来塾について、昨年度は6校であるが、学校が希望す

れば増えるのだろうか。

泉生涯学習課長 学校から希望があれば対応できると考える。

渡邊教育委員 生涯学習課の取組は、年々充実してきていると感じている。地域未来塾の活動に携わっておられる先生と話をしたが、とてもやりがいを持って頑張っておられた。こういった活動が多く
の学校に広がることを期待している。

●基本方針 1 1 家庭における教育力の向上

泉生涯学習課長 点検・評価票により成果指標の進捗状況等について説明
中村教育サポート
センター所長

丸山教育委員 家庭教育学級について、小学校では開設の割合は高いが、まだ100%ではない状況のなかで、二見小が新規開設されたのは、働きかけを行った結果であるなど、開設のいきさつはある
だろうか。

泉生涯学習課長 未開設校については、働きかけを行っている。二見小については、家庭教育学級は必要なものであると認識いただいたことにより開設された。開設されていない学校に打診をしていない
ということではない。周知は行っている。

丸山教育委員 働きかけによりご理解いただいたということで理解した。小学校で未開設校はあと何校くらいだろうか。

右谷生涯学習課社会教育係長 小学校は2校である。

●基本方針 1 2 地域における教育力の向上

泉生涯学習課長 点検・評価票により成果指標の進捗状況等について説明

丸山教育委員 まなびフェスタの参加団体数の目標値が28団体となっているが、この数値が最大値になるのだろうか。また、八代市子ども会連合会について、千丁校区が退会されたとのことであるが、もともと2校区で構成されたものであると認識している。
現在の在会状況はいかがだろうか。

泉生涯学習課長 子ども会連合会について、千丁校区、鏡校区の2つの校区で運営していたが、今年度、千丁校区が脱退することになった。1つの団体で連合会として認められるかを協議したが、鏡校区が引き継ぐということで県に打診している。また、鏡校区が他の校区に呼びかけ、会員数を増やしていくとしている。鏡校区が連合会の引き続きの団体としている。ただし、市から支出する負担金は、千丁校区の会員数を除いた負担金を支出することとしている。今後、11月に審議会を予定しているので、会員が増えれば、負担金もそれに合わせて計上することとしている。

まなびフェスタの参加団体数は、28団体が最大値である。

中川生涯学習課生涯学習推進係長 ステージ発表の時間が限られており、また、展示や発表をする場所も限られているため、28団体が最大であると考えている。

丸山教育委員 まなびフェスタの参加団体数は、時間と場所を考慮しての数値と理解した。また、子ども会連合会について、構成団体が1団体で連合会というのは、説明として難しいのではないかと思います。1校区に対して、市が補助金を支出するということになる。子ども会は他の校区にもあると思うが、そちらからの不平不満は出ないだろうか。

泉生涯学習課長 脱退した千丁校区から、補助金を求められることはなかった。あくまでも鏡校区に引き継ぐということで団体が成り立っている状況である。

丸山教育委員 子ども会連合会のあり方については、今後、検討していく必要があるのではないかと思います。

●基本方針13 生涯を通じた学習活動の推進

泉生涯学習課長 点検・評価票により成果指標の進捗状況等について説明

澤村教育委員 生涯学習は重要な分野であると思う。学校教育は教育の基礎の部分であるが、生涯に渡って学び続ける、向上するということは大事なことである。非常に工夫をされて取組をされていると思う。今後の課題と方向性について、多くの市民の目に触れることを意識した情報提供（時期や対象者、手段）に努め、加

えて目にした市民を学びの場へ呼び込む工夫を検討していくとあるが、今後は大事なことであると思う。市民の方には広報などを通じて周知されていると思うが、どれだけの市民の方が目にされるか、その場に参加され、興味深く思われるのか、非常に大事になってくると思う。ニーズの捉え方の方法、選び方については工夫をお願いしたい。

泉生涯学習課長

生涯学習課が行う全ての講座については、アンケート調査を行っている。どのようにして講座を知ったのか、今後してみたい講座はどのような講座かなどを質問している。講座を知ったのは「広報やつしろ」が一番多いようである。市民のニーズとしては、教養、スポーツなどである。講師との調整ができれば、講座を広げていきたいと考える。

●基本方針14 人を育む図書館づくりの推進

泉生涯学習課長

点検・評価票により成果指標の進捗状況等について説明

丸山教育委員

取組内容については充実した取組がなされていることは理解できるが、A評価とした理由をもう少し詳しく記載していただかないと、結びつかない。また、成果指標の結果を踏まえたうえでの評価であると思う。例えば、読書活動の推進では、タブレット端末を利用し、電子図書を引き続き閲覧できる取組を継続しているということであるが、電子図書利用者数は、昨年度から1万人ほど減少している状況があり、成果指標と説明と評価が合わないように思う。敢えてA評価としてあるのは、こういった点が目標を上回ったからであるというような記載を加えていただきたいと思うが、いかがだろうか。

泉生涯学習課長

図書館の来館者数は増えているが、貸出冊数は減少している状況を踏まえてA評価とした理由としては、図書館を利用している方は増えており、夏休み期間中は図書館で学習活動をしている方が多いが、本を借りるところまでは至っていない。このような課題もあるが、来館者数は増えているので、A評価とした。図書館は指定管理者で運営されており、本を借りていただく工夫や電子図書についても工夫をされている。いかに利用者のニーズに合った取組をするかという課題はあるが、指定管理者の取組も評価し、A評価とした。

丸山教育委員

指定管理者の評価については否定するつもりは全くない。基

本計画の評価として、予定された事業を実施したということでの評価については素晴らしいが、A評価とした理由を具体的に示していただかないと、他の項目の評価との整合性もあるので、いかがだろうかと思った。

中教育長 ほかの委員の方はいかがだろうか。先ほどの「生涯を通じた学習活動の推進」については、全てB評価であるが、これについては、全てA評価となっている。

渡邊教育委員 昨年度はどのような評価だっただろうか。

泉生涯学習課長 昨年度は全てA評価であった。

渡邊教育委員 すべての施策を見たなかで、これだけA評価が並んでいるので目を引いたが、内容、説明、全てに理解、納得できたかという点では、まだ不十分であると感じた。

中教育長 昨年度、A評価であったポイントはどのような点だろうか。ゲートを設置したのは令和5年度ではなかっただろうか。

泉生涯学習課長 昨年度は同様の内容で、3項目ともA評価となっている。令和5年度の進捗としては、各種行事を積極的に開催し、貸出冊数とおはなし会の参加者数の増加につながっていること、電子図書利用者数については、学校配布のタブレット端末で電子図書を貸出できるサービスが開始された令和4年度に比べると減少しているが、令和2年度より増えており、確実に普及しているとしている。このようなことを考慮して、今年度もA評価とした。

中教育長 昨年度と同様の取組をしたが、数値は下がっているというのが今年度の状況ではないか。

泉生涯学習課長 数値が下がっている項目もあるが、これについて考えられることもある。電子図書の利用者数の減少については、ほかのメディアソースが普及したため、図書以外の様々な選択肢が増えたことが考えられる。しかしながら、図書館としては市民のニーズに則した取組を行っていることから、A評価としてよいのではないかと考える。

中教育長 A評価は予定を上回る進捗であったということである。B評

価は概ね順調であるということであり、恥ずるべき評価ではない。A評価は概ね順調よりもさらに強調する部分があるということでA評価となると思う。B評価は順調であるということに関しては否定されないが、それ以上のA評価をするには、説明を聞いた方が納得できるようなポイントがあったらどうか。

泉生涯学習課長 図書館がやるべきことはしているが、なかなか数値に結びつかない。図書館としては工夫をしながらしていることから、A評価としている。

中教育長 やるべきことをしているということであれば、B評価ではないかと思うが、教育委員の皆さまのご意見はいかがだろうか。

丸山教育委員 指定管理者に対する評価ではなく、計画の進捗状況の評価であるため、昨年度はA評価であったが、翌年、同じことをして、前の年からの進捗が見られないのであれば、B評価ではないかと思う。A評価となると、もう1段階上を求められるのではないかな。

中教育長 評価については、A評価は難しいのではないかな。概ね順調であるということをしっかり認めたということでB評価が妥当であると思うが、修正してよろしいかな。

泉生涯学習課長 承知した。

●基本方針16 社会教育施設の整備

泉生涯学習課長 点検・評価票により成果指標の進捗状況等について説明
田島博物館未来の
森ミュージアム副
館長

丸山教育委員 図書館施設の整備・充実については、予定されていた改修工事だったのだろうか。

泉生涯学習課長 整備については、予定していたことである。突発的な修繕はほとんどない。特に、南側ベンチ修繕については、森林贈与税を100%利用した取組である。今年度においては、木製の机を設置している。老朽化しているが、市民のニーズを捉えながら運営ができているということでA評価としている。

丸山教育委員 同様の年数が経過している博物館の改修工事については、B評価としてあるので、これとの違いを示していただけると理解できるがいかがだろうか。

中教育長 特に、この年度だからこういうのがあったということはあるだろうか。

泉生涯学習課長 特にというのではないが、図書館業務を休館せずにできたことを評価したところである。博物館も同様に、老朽化による改修工事でありB評価としてあるのであれば、同様にB評価になるかと思う。昨年度はA評価であり、移動図書館の更新やI Cチップの導入があった。

中教育長 昨年度は、移動図書館の更新やI Cチップの導入が評価されてA評価であったと思われる。今年度、特記すべき事項に値するものがなければ、概ね順調というのが妥当ではないかと思うがいかがだろうか。B評価に修正してよろしいか。

泉生涯学習課長 承知した。

●基本方針 1 7 歴史文化遺産の保存継承と活用

米崎文化振興課長 点検・評価票により成果指標の進捗状況等について説明

丸山教育委員 お祭りでんでん館について、観覧料を無料化してあるが、観覧者の推移はどのようになっているか。

米崎文化振興課長 お祭りでんでん館について、入館目標を累計で令和7年度までに6万人としている。令和6年度末までで、59,680人であり概ね達成している。昨年度の入館料無料化に伴って劇的に増加したと思われるものとしては、クルーズ船で入港された方が、入館料が無料ということで利用される機会が増えたのではないかと考えている。また、以前から入館料が無料だった中学生以下は3,000人弱で推移している状況である。

丸山教育委員 外国の方以外の入館者については、そんなに推移はなかったということだろうか。

米崎文化振興課長 そうである。外国の方が八代の文化に触れる機会が増えたの

ではないかと感じている。

丸山教育委員 外国のお客様に対応した工夫はされているか。

米崎文化振興課長 説明のガイダンス機能については、開館当初から多言語に対応している。4か国語に対応している。

渡邊教育委員 西部文化財収蔵施設から遺物を移転したとあるが、どのような遺物が移転されたのだろうか。また、出前講座や見学会など、学校の利用が増えたとあり、よいことであると思う。内容やどの程度の利用であるか、状況を伺いたい。

米崎文化振興課長 西部文化財収蔵施設から移転した遺物については、これまで市内で発掘調査で出土をした遺物である。多くは麦島城跡の発掘調査で出土した瓦や木製の部材であり、国の指定文化財となっているものである。今般、豪雨災害からの復旧ということで、当該地、旧西部小学校跡地に排水機場が設置されるため、国の費用により、主に鏡旧保健センター、深見、久多良木社会教育センターに一部移設した。また、出前講座について、令和5年度は930名程度の参加、受講申し込みをいただいた。児童生徒については250名程度であり、全体の27%程度であった。昨年度は726人の参加者のうち432人であり、全体の6割程度は学校で利用であった。学校の校舎内に指定文化財のある植柳小学校は、毎年利用されていたが、昨年度は日本遺産に関連する干拓の干門について、文政小学校や鏡小学校から出前講座の依頼があった。

渡邊教育委員 全体的な参加者数は減少したものの、子供たちの参加者は増加したということで理解した。どんどん広報をして、広めてほしい。

●基本方針18 災害からの復興推進・教訓の継承

押方教育政策課長 点検・評価票により成果指標の進捗状況等について説明
泉生涯学習課長
加賀学校教育課長
稲本教育部理事兼
教育施設課長
田島博物館未来の
森ミュージアム副

館長

早田教育委員

評価に関しては問題ないと思う。成果指標について、毎年、この場でお伝えしているが、マイタイムラインの作成率が100%であっても防災力アップにはつながらないので、この先にある児童生徒の姿について、例えば、子供たちがマイタイムラインを作成したことによって親や家族と話した割合や先生たちに向けて、授業で防災の教訓を伝えられた割合など、実態に応じて次の指標としていただきたい。それが、本当の防災力アップと評価につながると思う。教訓の継承について、5年前の教訓の継承を今回の災害を受けてさらに強化してほしい。今回、被災したことを未来に残してほしい。八代市は約60年前に市内が浸水しているが、このことを知っている人は非常に少なかったと思う。当時の状況があまり残っていないから伝えられなかったということもあると思う。ぜひ、今回のことを未来に残して、これから生まれてくる子供たちも知ることができるようにしてほしい。これに伴って、語り部や災害史、写真や動画のアーカイブなどを作成できるとよいと思う。今回の被災地の経験をどう活かしていくかが大事であると思う。また、学校については、防災計画の見直しと教職員の研修に力を入れていただき、また、今回の経験を外部に発信できると子供たちの生きた防災の力になると思う。外部の防災教育の研修を受け入れて、子供たちに話してもらいなどの取組もあるとよいと思う。令和2年7月豪雨と今回の豪雨は同じ水害であるが、起こった原因が外水氾濫と内水氾濫ということで、全く異なる。ハザードマップを見ることがあると思うが、通常見ているハザードマップは、球磨川が氾濫した場合の最大想定を示している。今回は球磨川は氾濫していない。内水氾濫のハザードマップがあるので、それに従って行動していれば、むやみに外に出ずに家の中で命が守れた。ハザードマップを見ることは、防災教育の第一段階であるが、その先について、教職員の中で大人が研修等をしていく必要があると思った。

加賀学校教育課長

マイタイムラインについて、取組の当初は0%であった。スムーズに進んで100%になったが、これで良しとしているものではない。それぞれの子供たちが、マイタイムラインの更新を毎年行い、それについてしっかり考えることが大事であると思う。次期計画では、これを踏まえた指標としたい。

丸山教育委員

マイタイムラインは、全小中学生の作成率が100%なのだ

ろうか。坂本町の小中学生だろうか。

加賀学校教育課長 全ての小中学生の作成率が100%である。

丸山教育委員 新しく小学校に1年生が入学するごとに作成するという
ことだろうか。

加賀学校教育課長 小学1年生はゼロからの作成となる。兄弟がいれば参考にな
ると思うが、基本的にゼロから作成する。

●基本方針15 文化の継承と創造に貢献する博物館づく り

田島博物館未来の
森ミュージアム副
館長 点検・評価票により成果指標の進捗状況等について説明

渡邊教育委員 改修工事期間中ということで、収蔵品等は他の場所に一部置
いてあると思うが、大変なこと、困ったことはなかったらう
か。

田島博物館未来の
森ミュージアム副
館長 館内でのスペースが確保できないため、一部、移設すること
になった。なるべく館内で保管したいと努力はしたが、鏡保健
センターに一部移設した。鏡保健センターについては、今回の
大雨で被災はしなかったため、収蔵品は無事に保管できている。

中教育長 館外に持ち出したのは、鏡保健センターだけだろうか。

山崎博物館未来の
森ミュージアム審
議員兼学芸長 松井文庫からお預かりしているものは、県立美術館に移設し
た。県指定品など、貴重なものは県立美術館に預かっていただ
いている。

丸山教育委員 鏡保健センターは決して安心して保管できる施設ではない
と思うが、どのような状態で保管しているのか。

山崎博物館未来の
森ミュージアム審
議員兼学芸長 鏡保健センターに保管しているものは、主に木製品の農具や
民具と言われるもので、段ボール箱に梱包し、積み上げている。
また、シートをかぶせ、外からは見えない状態にしており、簡
単に触れないようにしている。

- 丸山教育委員 文化振興課においても、鏡保健センターの1階に一部保管しているということだったので、どのような状態で保管されているのだろうかと思った。博物館については、改修工事が終われば戻されるということなので一時的ではあるが、大事な収蔵品なのでよい状態で保管していただきたい。
- 中教育長 ほかに質問等がないようであれば協議を終了する。全体を振り返って、感想等はないだろうか。
- 丸山教育委員 昨年度も申し上げたが、評価の基準はどうなっているのかとお尋ねしたところ、今年度は、評価基準の内容を配付していただき、これを基に発言できたが、言いにくいことも発言しなければならず、この場でそのような発言は避けたいと思う。事前に部内でしっかり全体の分をチェックされていると思うので、各課全体に課題がないように調整していただいたものを出していただけると、内容についてもっと確認できるのではないかなと思う。
- 中教育長 しっかり部内で調整しておきたい。
- 早田教育委員 目標値を早々に達成している項目があるが、見直しは行われないのだろうか。5年間この目標値だろうか。
- 押方教育政策課長 例えば、教育施設課のトイレの洋式化については、目標値を上方修正している。修正は可能であるが、これについて助言等を行っていない。
- 早田教育委員 指標項目は修正できないということでしょうか。
- 中教育長 市のほかの計画についても、期間中に項目を変更することはほとんどない。目標等の数値に関しては、外的要因が変わったことにより、修正することはある。何かの要因で、予算が一気に付いたことにより、予定より早く事業が終了することもある。はっきりとしたルールはないので、次の計画に入ったときは、目標値の見直しについても共通の基準をもって、見直すか見直さないかを判断していかなければならないと思う。
- 澤村教育委員 指標項目について、例えば心の教育など、数値化することが難しい項目もあり、図書館の電子図書の利用など、時代の変化に応じていない項目もある。電子図書の利用者については減少

傾向にあるが、理由としてはSNS等の普及により、図書以外の様々な選択肢が増えたことがあげてあり、時代の変化により変わっていくものもあるので、それに応じて、指標の項目が適したものであるかを判断していかないと、評価しづらいのではないかと感じた。今後、その点についてはよろしく願いたい。

中教育長

さまざまな意見をいただいたので、本日の協議をふまえて外部評価委員に意見を願いたい。

〈休憩〉

(議事再開) 午後2時50分

〈秘密会〉

〈報告第18号〉 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

〈秘密会につき、会議内容は省略〉

6. 会議録署名委員の指名 渡邊委員・澤村委員

7. 閉会 (午後3時30分 閉会)

令和 年 月 日

署名委員

記録者
